

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-89

学校名・団体名	広島市立亀山南小学校
HPアドレス	<a href="http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=e0989">http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=e0989</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	全ての子どもの〈学びと育ち〉を保障する 授業づくり
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>「聴く」「つなぐ」「もどす」活動を通して、授業を「勉強」から「対話」と「共同」のある学びにし、全ての子どもの学びを保障することで、基礎学力の定着と向上を図り、自己肯定感を高める。</p>	

## 1 授業研究

### ①全体授業研究

全体研究会は佐藤雅彰氏(「学びの共同体」スーパーバイザー)を講師にお迎えし、3回実施した。研究会当日は、該当学級だけでなく全学級参観していただき、授業づくりに関する指導・助言をいただいた。全体授業研究前には、全職員で教材研究と授業デザインの検討を行う事前協議会を実施した。

#### ○ 5月20日(水) 6年生 算数科「分数のかけ算を考えよう」

学力差が大きい実態があるなか、図をもとにして思考し、式や言葉と結び付けていながら学び合っているよう授業を組み立てた。佐藤氏からは、「授業の中で子どもを見る力を養い、ケアが必要な児童に必要なケアをしていくことが大切であること」等を指導していただいた。

#### ○ 10月30日(金) 2年生 算数科「かけざん」

1時間の授業の中で、学力が低い、集中が途切れやすい等課題をかかえた児童への教師や周りの児童のかかわり方について多くのことを学ぶことができた。佐藤氏からは、「児童の様子から集中力が切れたと感じたらペアで話すなどの活動を入れていくとよいこと」等を指導していただいた。

#### ○ 2月4日(木) 4年生 算数科「箱の形を調べよう」

操作的な算数的活動を多く取り入れ、多様な展開図を考えてグループや全体で交流し合う授業が行われた。佐藤氏からは、「『教える』ということは、子どもの『わからない』という気持ちがわかることであること」や「子どものアクションに対して、教師がどうリアクションするかが大事であること」等を指導していただいた。また、来年度に向け、「分からなければ友達に訊けばよいということ、訊かれた人は、相手が納得するまで説明するというのを、学校全体で徹底させていくこと」を助言していただいた。

### ②ブロック授業研究

低学年・高学年・中学年の3つのブロックに分かれ、毎月1回、児童の様子や日々の取組を交流しあった。また、ブロック内で授業を公開し、研修を深めた。

#### ○ 7月1日(水) 1年生 算数科「のこりはいくつ ちがいはいくつ」

#### ○ 11月12日(木) 5年生 算数科「比べ方を考えよう」

#### ○ 12月8日(火) 3年生 算数科「かけ算の筆算を考えよう」

### ③学年授業研究

学年で教材研究を行い、全職員が年1回以上研究テーマに沿った授業を公開した。

## 2 プロジェクト研究会

各ブロックのメンバーが「授業改善」「読書活動」「スキル学習」のプロジェクトチームに分かれて所属し、それぞれの活動を推進した。

### ○ 「授業改善」チーム

- ・以下の視点に沿って授業改善を行うよう、研究の推進を行った。
  - すべての授業に「活動」「他者との協同」「表現の共有」を入れる。
  - 「聴き合う関係」を構築する。(他者の話に辛抱強く耳を傾けて対話すること)
  - 日常的な授業を「仲間との交わり」「モノやこととつなげる」活動に切り替える。

### ○ 「読書活動」チーム

- ・週3回、朝読書の時間を設け、全員が集中して読書ができるよう取り組んだ。
- ・自分の図書と向き合うために、図書カードの工夫や、「紹介カード」を書く活動を行った。
- ・読書の幅を広げ、質を高めるために、読み聞かせや「読書ビンゴ」に取り組んだ。

### ○ 「スキル学習」チーム

- ・週1回、視写タイムを設け実施した。
- ・「スキルタイム年間計画」を作成し、計画に沿ったスキル学習を実施した。

## 3 先進校の視察やセミナーへの参加

5名の教員が、2件の先進校の授業研究会や学びの共同体のセミナーへ参加した。研修成果はレポートにまとめて他の教員へも広げ、情報を共有した。

## 4 成果と今後の課題

○児童アンケートの結果「ペアやグループの人と一緒に考えることが楽しい」「ペアやグループの人と一緒に考えると勉強がよくわかる」と答えた児童の割合は昨年度より増えている。ペアやグループでの活動を多く取り入れたことで、分からないことを友達に訊いたり、一緒に考えたりする児童が増え、良好な人間関係づくりにもつながった。

○日々の授業に「活動」「他者との協同」「表現の共有」を入れることが意識統一でき、授業改善につながった。  
▲「分からなければ友達に訊けばよい」「相手が納得できるまで説明をする」という、依存し支え合える関係を構築していく。

▲授業の中で、児童を「テキストとつなぐ」「人とつなぐ」ためのスキルを身につけていく。